



- 災害につながるような大雨の情報を避難の準備・判断に役立ててください。
- 避難のきっかけとなる気象情報を決めておきましょう。

記録的短時間大雨情報（きろくてきたんじかんおおあめじょうほう）

土砂災害や浸水害、中小河川の洪水害の発生につながるような、**まれにしか観測しない雨量**であることを知らせる情報です。

顕著な大雨に関する気象情報（けんちょなおおあめにかんするきしょうじょうほう）

大雨による災害発生の危険度が急激に高まっている中で、線状の降水帯により非常に激しい雨が同じ場所で実際に降り続けている状況を「**線状降水帯**」というキーワードを使って解説する情報です。
警戒レベル4相当以上の状況で発表されます。

線状降水帯（せんじょうこうすいたい）

次々と発生する発達した雨雲（積乱雲）が列をなし、数時間にわたって **ほぼ同じ場所を通過または停滞**することで作り出される長さ50～300km程度、幅20～50km程度の **線状に伸びる強い降水域**を**線状降水帯**といいます。

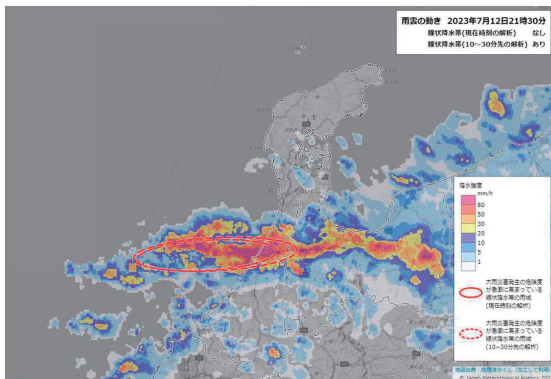
線状降水帯による大雨の可能性がある程度高いことが予想された場合に、**半日程度前**から、気象情報において「線状降水帯」というキーワードを使って呼びかけられます。

近年も大きな水害のたびに線状降水帯が発生しており、**災害に直結する**キーワードと言えます。

※代表的な近年の大水害

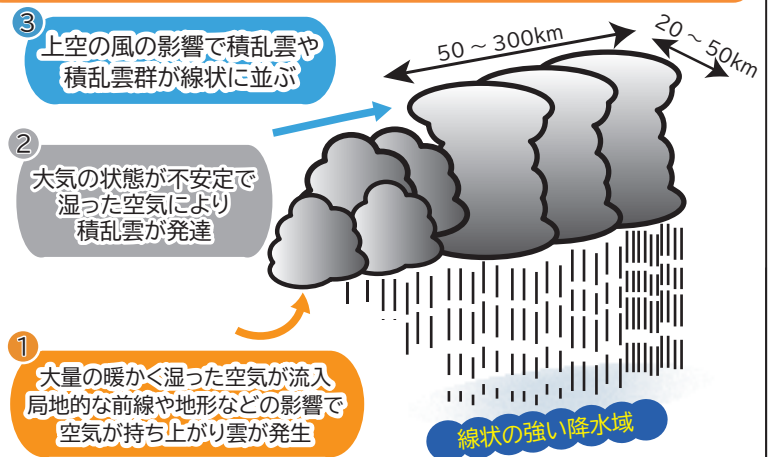
熊本県球磨川(2020)、西日本豪雨(2018)、九州北部豪雨(2017)、関東・東北豪雨(2015)、広島市の土砂災害(2014)

線状降水帯の例（令和5年7月発生）



出典：気象庁金沢地方気象台
令和5年7月12日から13日の大雨に関する石川県気象速報

線状降水帯の代表的な発生メカニズム



これが出たら災害発生の可能性が高い!!

天気予報でよく聞く雨の強さ

やや強い雨



1時間に10～20mm

ザーザーと降る雨
地面一面に
水たまりができる

強い雨



1時間に20～30mm

どしゃ降りの雨
傘をさしていても
濡れてしまうほど

激しい雨



1時間に30～50mm

バケツをひっくり
返したような雨
道路が川のようになる

災害発生につながるような雨の強さ

非常に激しい雨



1時間に50～80mm

ゴーゴーと降り続く雨
車の運転は危険

2023年7月12日
74.5mm/時間（かほく）
石川県初線状降水帯発生

猛烈な雨



1時間に80mm以上の雨

恐怖を感じるような雨
車の運転は危険

2022年8月4日
102.5mm/時間（白山河内）
小松市梯川氾濫

雨の強さと降り方